

工藤篤子メールマガジン 121号

2008.03.13

●台風の日 ●荒野で叫ぶ声



●台風の日

お変わりありませんか？

先日、ハンブルクに台風「エンマ」が上陸しました。この日、ハンブルク空港に着陸しようとした飛行機が、着陸寸前で強風にあおられて機体が傾き、左翼が滑走路にぶつかるというハプニングが起きました。幸いにもパイロットのすばやい機転で再び上空に飛び立ち、15分後に無事着陸に成功しました。その時の様子を撮影したアマチュア・ビデオがニュースで放映されましたが、それはまるで映画のワン・シーンのような光景でした。



台風といえば、いつも思い出すのが、私を信仰に導いてくれたダニエル宣教師のコメントです。問題にぶつかってはいつもパニック状態に陥ってしまう私に、ある日、ダニエル宣教師は、廊下の飾り台に置いてあった百科事典を開き、台風を上空から撮影した写真を見せてこう言いました。

「アツコ、どのような時にもこの台風の目の中にとどまっていなさい。そこそ、風も吹かず、雨も降らず、全く平安で安全な場所です」。彼は、イエス・キリストのことを言っていたのです。

私の上に時々ふりかかる問題だけでなく、今の世の中の現状は、この台風のように怒涛の嵐が吹き荒れている状態だと思うのです。その中で主の福音を宣べ伝えてゆくには、私自身がいつもイエス様の内に堅くとどまっていなければならないと思わされています。

●荒野で叫ぶ声

数週間前、40年来路傍伝道を続けてきたという70代のご夫妻に出会いました。ご主人のルードルフは、立っても歩いても、何をしても、エヴァンジェリストそのものです。道歩く人にも、バスの停留所でも、地下鉄で隣に座る人にも優しく話しかけ、福音を語り、トラクトを渡すのです。そして、毎週金曜の夕方には、ハンブルクの目抜き通りで、5~6人のグループで路傍伝道をしているというので、先日、私もそこに行ってみました。



彼らの伝道する場所に到着する数メートル前から、若者たちの罵声がかぎって聞こえてきました。「神の祝福がありますようにだ？ 祝福が必要なのはお前たちの方だ！」「ハレルヤクレイジー！ いいかげんにしろー！」。イスラム教徒らしき若者も叫び返しています。「おれたちの神はアラーだけだ！」。その罵声をくぐり抜けてゆくと、ひとりの若者(写真左、手前のリュックサックの男性)が、福音を大声で語って、いや、叫んでいました。

その横では、相変わらず何人かの若者が罵声を浴びせかけながら通り過ぎてゆきます。若いメッセンジャーはその罵声をものともせず、福音を叫び続けます。まさしく「荒野で叫ぶ声」です。中には立ち止まって聞く人もいます。そのような人たちに、別のメンバーがすばやくトラクトを持って話しかけに行き、個人的に福音を語ります。抜群の連携プレーです。

その様子を見ながら、私も、1990年に旧東ドイツに自転車伝道旅行に行った時のことを思い出しました。このことは、「賛美のこころ」に詳しく書かせていただいています。私たちは7人の隊を組み、2週間、毎日主に導かれた町へ出かけて行っては、広場で歌い、トラクトを配りながら伝道しました。あのときに経験した、福音を伝えるときの心高鳴る喜びは、今でも忘れることができません。
(写真右、東ドイツでの路傍賛美)



4月からの賛美伝道に向けて、彼らを見ながら、私も福音を宣べ伝える者としての初心に戻られました。そして、賛美を通して、主の救いと来臨を告げ知らせる「荒野の声」でありたいと、今ひとたび心燃え立たせられているところです。

全世界に行き すべての人に 福音を宣べ伝えなさい。(マルコ 16:15、マザーバジレア訳)

来週は、いよいよ受難週ですね。日本行きに向けて最後の準備の追い込みの時ではありますが、主の十字架の足跡を偲び、十字架と一体とならせていただく日々とさせていただきたいと願っています。そして、イースター・マンデー(ドイツでは月曜までイースターです)が明けた3月25日にドイツを発ち、26日に大阪に到着する予定です。どうぞ、それまでの準備と、4月からの日本、中国での賛美奉仕のためにお祈りお支えください。

[春のスケジュール]

3月31日(月) 声楽レッスン

4月 6日(日) 東京フリー・メソジスト小金井教会 賛美コンサート

4月10日～15日 中国(13日が杭州教会での賛美)

ゴールデンウィーク中 レコーディング

5月11日(日) 堺栄光教会 賛美コンサート

5月15日(木) 北本福音キリスト教会 婦人会伝道コンサート

5月17日(土) 「愛と希望と平和をあなたに」コンサート

5月25日(日) インマヌエル聖宣神学院 チャペルコンサート

6月 2日(月) 札幌ザ・ルーテルホール・ジョイント・リサイタル

*それぞれのコンサートの詳細、お問い合わせ先等は、ホームページのスケジュールをご覧ください。

<http://atsukokudomm.com/html/schedule.html>

受難週、イースターに向けて、皆さまの心の内に十字架のご愛が溢れるときとなりますよう、心からお祈りしています。それでは、次回は、日本からメルマガをお送りさせていただきます。

工藤篤子